

# 掛川市との「健康増進協定」調印！

## 【協定の目的】



持続可能なまちづくりには、交流人口を拡大し地域経済を活性化させることが必要です。明和町と掛川市のお互いが、特産品を通して健康増進を推進しながら友好的な都市交流を深め交流人口を拡大し、地域経済の活性化に繋がることを目的にこの度の協定を締結しました。

## 【掛川市の松井三郎市長と握手！】

(画像の1番左側：掛川市イメージキャラクターの茶のみやきんじろう)

## 【歴史的にも掛川市と明和町は近い！】

江戸時代、掛川市は掛川藩の、明和町は館林藩の領地でありました。当時の館林藩主である太田資俊<sup>すけとし</sup>は延享3年（1746年）徳川家重（9代将軍）の命により掛川藩に移り、以後7代にわたり幕末の廃藩まで治めることとなりました。掛川城には太田家から寄贈された歴史上の数々のお宝が展示してありました。



## 【掛川城 天守】

戦国時代には、山内一豊が城主として10年間在城しました。掛川は、一豊の人生にとって大きな意味をもつ土地であり、高知城は掛川城を模して作られたとも伝えられています。

## 【町民の健康増進！】

協定を結びました掛川市の特産品「深蒸し茶」は、健康食品としてここ数年マスコミ（フジテレビ「バイキング」、TBS「はなまるマーケット」、NHK「ためしてガッテン」等）に取り上げられています。

掛川市は、市区町村の中でがんによる死亡率が日本一低く、高齢者の医療費も全国平均と比べて20%以上も低いとされています。また、健康寿命も日本で一番長い都市なのです。なぜ、高齢になっても元気でいられるのでしょうか？その秘密のカギを握っているのが、掛川市民が毎日飲んでいる特産品の深蒸し茶です。

深蒸し茶とは、その名のとおり、製造工程の最初で茶葉の蒸す時間を通常の2～3倍かけたものです（普通煎茶は30～60秒なのに対し、深蒸し煎茶は60～120秒）。掛川市は日照時間が長いため、栽培において茶葉の渋みが強くなってしまいます。そこで茶葉の渋みを和らげるために蒸し時間を通常の倍にして作ったものが深蒸し茶です。蒸し時間が長いことで、茶葉の細胞が通常のお茶より破壊されているため、本来溶け出さない茶葉の栄養成分までお茶に含まれ摂取することができる健康増進のお茶なのです。

## 【明和町の現状】

明和町は、同規模自治体と比べがんの医療費が高く、健康寿命も長いとは言えないのが現状です。今後は、健康増進に力を入れて行きたいという思いから掛川市の特産品である「深蒸し茶」に着目しました。今後、学校給食のレシピにも掛川産深蒸し茶を取り入れた健康食品を提供して行くとともに、折に触れて町民の皆様にも広く掛川産深蒸し茶を提供して行く予定です。

## 【掛川市役所職員は稼ぐ発想を持っている！】

掛川市役所のフロアは、段々畑（お茶畑）をイメージして建設されています。玄関を入るとデジタルサイネージ（電子看板）があり企業広告収入を取り入れております。また、結婚式場と提携しており市役所の3階フロアは結婚式の披露宴会場となることがあるそうです。

今後は、屋上に市役所のそばを走る新幹線の車窓から見えるような巨大広告を募集すると話しておりました。職員が市の財政を考えて知恵を搾っております。





【掛川市役所】（市長のいる5階から一望できます）  
（3階フロアは結婚式の披露宴会場になることもあります）

### 【お互いにとって Win-Win な関係をめざしたい！】

今回の協定締結によりまして、お互いの連携を強化し交流が盛んになることで、シティプロモーション効果が高まり明和町と掛川市がより一層発展できますように・・・。

平成31年 2月25日

明和町長

富塚もとすけ